

令和 4年 9月「月報」

1 はじめに

8月に入り、東北、北陸を豪雨が襲い、大きな被害をもたらしました。

お見舞い申し上げますとともに、地域の皆様の被害が極小であることを、お祈りしております。

8月12日に浜田靖一防衛大臣が着任しました。

浜田大臣は、着任式において、防衛省自衛隊の幹部に対し、国家安全保障政策を一層戦略的かつ体系的なものとする。その基盤となる国家安全保障戦略、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画の改定に取り組み、防衛力を5年以内に抜本的に強化する。その際、いわゆる「反撃能力」の保有も含め、あらゆる選択肢を検討し、年末に向け、防衛力強化の内容、規模、財源をセットで検討し、結論を得ると述べたほか、弾薬の確保等による継戦能力の維持、AI、無人機、量子等の先端技術の研究開発、防衛生産・技術基盤の強化といった様々な課題に向き合い、防衛力の抜本的な強化に取り組む。日米同盟の抑止力・対処力を一層強化していく。「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、二国間・多国間の防衛協力・交流を推進する。相次ぐ自然災害への対応のための災害派遣の実施等、8項目にわたって言及し、安全保障の最後の砦としての重責を胸に、一丸となって任務に励んでもらいたいと訓示を結びました。

自衛隊家族会の活動は「～等による継戦能力の維持」のなかの「等」にあたるのでしょうか。広く国民に対する防衛意識の普及高揚、自衛隊に対する協力支援等を通じた「我が国の安全保障・防衛基盤の確立への寄与」は、わが国防衛のために戦い続ける意志と能力を支える大きな力になると言えるでしょう。

※防衛副大臣に井野俊郎氏、防衛大臣政務官に木村次郎氏、小野田紀美氏が8月12日にそれぞれ着任されました。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 8月3日から、前線の影響で東北地方の日本海側や北陸地方を中心に複数の線状降水帯が発生して記録的な大雨をもたらし、河川氾濫・住宅新水稻の被害が発生しました。

自衛隊は、8月4日の第30普通科連隊（新潟県新発田市 新発田駐屯地）を皮切りに、新潟県、山形県、石川県、福井県で、それぞれ人命救助や給水支援、救援物資の輸送支援等にあたりました。

派遣は8月4日から8日の5日間におよび、4県において延べ470名が人命救助等に係る災害派遣活動を、県庁など最大13箇所、延べ約70名が連絡員として派遣さ

れ、情報収集活動を実施しました。主な部隊は次のとおりです。

新潟県：陸上自衛隊第30普通科連隊（新潟県新発田市 新発田駐屯地）

航空自衛隊新潟救難隊（新潟県新潟市 新潟分屯基地）

山形県：陸上自衛隊第20普通科連隊（山形県東根市 神町駐屯地）

陸上自衛隊東北方面航空隊（宮城県仙台市 霞目駐屯地）

陸上自衛隊第6飛行隊（山形県東根市 神町駐屯地）

石川県：陸上自衛隊第14普通科連隊（石川県金沢市 金沢駐屯地）

福井県：陸上自衛隊第14普通科連隊（石川県金沢市 金沢駐屯地）

陸上自衛隊第6施設群（福井県鯖江市 鯖江駐屯地）

陸上自家隊第10飛行隊（三重県明野市 明野駐屯地）



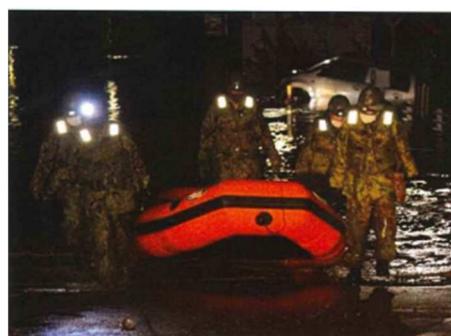
新潟県村上市での給水支援活動（30普通連）
お礼の手紙（右下）



航空偵察のための離陸準備
（新潟救難隊）



山形県飯豊町での給水支援活動（20普通連）



浸水地域での人命救助活動（14普通連）



福井県南越前町での物資運搬活動（14普通連）



（統合幕僚監部 HP）

- (2) 先月の月報で紹介した令和4年度海上自衛隊遠洋航海部隊は、7カ国9寄港地、48,600kmの航海を終えて8月22日に横須賀基地に帰国しました。神奈川県自衛隊家族会が帰国行事に参加し、労をねぎらいました。

3 家族会の活動

(1) 国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）派遣隊員を激励

8月2日、自衛隊家族会は、防衛省において中曽根政務官から辞令を受け、陸上幕僚長に対する出国報告を行った、第17次UNMISS司令部要員の神林3等陸佐と高橋3等陸佐を激励しました。

情報幕僚の神林3佐は、情勢に係る情報資料の収集・整理・配布及びデータベース整理に係る業務を、施設幕僚の高橋3佐はUNMISSの活動に必要な施設の配置・維持・補修に係る企画調整を実施します。



今井事務局員 神林3佐
阿部事務局長 高橋3佐

(2) 第49次派遣海賊対処行動航空隊隊員を激励

8月8日、野呂青森県自衛隊家族会会長と室谷八戸市家族会会長が、海上自衛隊第八戸基地を訪れ、第49次派遣海賊対処行動航空隊を激励しました。

派遣されるのは、吉富章友2東海佐を司令とする、海上自衛隊2航空群（八戸基地）所属の隊員60名で、8月15日にP-3C×2機に乗った先発隊が八戸基地を出発し、那覇基地経由で8月16日に出国。残りの要員は、8月16日に成田空港からチャーター機で出発しました。

2009年から始まったソマリア沖の海賊対処行動では、年間2万隻と言われる多くの船舶が往来するソマリア沖の上空で、3か月間にわたり警戒監視や情報収集などの任務にあたります。

写真は左から

室谷八戸市家族会会長
野呂青森県家族会会長
第2航空群司令高田海将補



(3) 富山県家族会が訓練場所の確保に貢献

富山県自衛隊家族会は、第6施設群第382施設中隊（富山駐屯地）が7月22日・23日の両日、魚津市の魚津補助港で行った渡河訓練に際し、訓練場所の調整に貢献しました。富山駐屯地では、県内に演習場が無い為に、本格的な訓練を行うには県外の演習場まで行く必要があるものの、新型コロナウイルス感染症の流行により、県境を跨いでの移動に制限が加えられると思うように訓練が出来ないという、大きな悩みを抱えていました。県内に訓練出来る場所を求めていることを知った県家族会が、海と山での訓練に適した場所が有るとされる魚津市にお願いし、十数箇所を提供して頂く運びとなりました。今回の訓練は、提供された場所を使用した最初の訓練であり、魚津市の村椿晃市長も見学されました。

訓練当日、富山県自衛隊家族会のピンクのTシャツを着た女性部員達の声援を受け、隊員約30名が浅瀬で渡河ボート3艘を組み合わせて軽門橋をつくり、1/2トントラックを載せて港内を一周し、孤立した場所に車両を輸送する訓練を行い、また、渡河ボートの漕艇訓練では、タイムトライアルで、



女性隊員の元気な掛け声で統制された女性隊員2名を含むチームが、屈強な男性隊員のみで構成するチームを打ち負かす頼もしい場面も見られました。

このような、演習場／訓練場以外の場所（※生地（せいち）と呼びます。）での訓練を県家族会のメンバーや一般の人達が見る機会を得ることは、自衛隊が日々災害や国難に備えて厳しい訓練をしていることを実感出来、また、近年多発している水害が仮に地元で発生しても、安心出来る頼もしさを感じることが出来ます。

訓練場所を提供する自治体にとっても、演習場以外の場所で訓練して、その近辺の地形等を部隊側に事前に良く知っておいてもらえば、事態が発生しても、部隊に迅速に対応してもらえる大きなメリットがあるでしょう。

本件は、長崎県自衛隊家族会の浦田正会長が南島原市で着上陸の訓練場の確保に尽力された例に倣い、地元市町と各地区会との緊密な関係をよすがに打診した結果とのことです。富山県家族会は、今後とも部隊と自治体との橋渡しを行っていきたいと考えておられます。7月の話で「月遅れ」になってしまいましたが、部隊側にとってはもちろん、（おそらく）自治体にとっても大変有難いお話と思われることと、他県等の家族会の皆様にもご参考になればと思い、掲載させていただきました。

(4) 募集広報支援と北方領土返還要求署名活動

栃木県自衛隊家族会の地区会は4年度に入って連休や週末に栃木地方協力本部の地域事務所が行う募集広報活動と同時に北方領土返還要求署名活動を実施しました。



この活動は以前から行っていましたが、ご多聞に漏れずコロナ禍の中2年間実施出来ないでいましたが、感染防止対策を十分に施した上で再開したものです。

第1回は5月5日(祝)、小山ハーベストウォーク(旧小山遊園地)で開催された「はたらく乗り物展」において栃木地本小山地域事務所企画で行われた募集広報時に小山市地区会(石崎会長)7名が協力し、第2回は学校が夏休みに入り行楽客が増加する7月31日(日)に国道新4号線沿いの「道の駅 しもつけ」において下野市地区会(伊沢会長)6名が協力、8月6日(土)には国道50号線沿いの「道の駅 思川(おもいがわ)」において第1回と同様に小山市地区会が実施しました。

今回の活動で、「ウクライナ侵攻」に対する国民の危機感が感じられ、その象徴として署名活動の呼びかけに対する反応が早く、此方が説明するまでもなく「北方領土返還」の声を消してはならないという意見をお聞きすることができました。また、中高生のグループでは北方領土の事は知っているが終戦時の経緯を知らず此方の説明に「初めて知りました」と言う子供達があり、署名呼びかけ以前に北方領土問題の歴史的背景の社会教育が必要だと痛感しました。

(5) 教育入隊中の地元隊員を激励

津地区家族会は、8月3日、久居駐屯地で、津地区から入隊した新隊員後期教育期間中の3名の激励会を行いました。

コロナ禍の環境下、隊員の皆様方のご迷惑とならぬよう、部隊側と綿密に調整し、参加する会員は日々の検温を行い、当日は、あらゆる感染予防対策を施して、3年連続の実施にこぎつけました。



大谷理事 横山会長 石原副会長

石原副会長の司会進行により、家族会の概要説明と津地区家族会がいつも隊員の皆方を応援していることをお伝えし、横山会長からは「国民が苦難の時に見事にその負託に応えられるのは、人知れず厳しい訓練にあたっている証。」「今まさに厳

しい訓練に当たっておられるのは、国民のためとご理解されて更なるご努力を続けて下さい」と挨拶しました。最後に、大谷理事より、現職隊員の母親ならではの温かい励ましの言葉を贈り、皆様から拍手を頂きました。

今回は激励隊員のうち2名が女性隊員であり、キラキラとした笑顔が素敵で印象深く、男性隊員と一緒に訓練されていることに強い志を感じました。

地方協力本部にお願いして、行事の写真を隊員のご自宅に届けて頂きました。

お盆休暇で帰省された際に、ご家族の皆様から、「頑張ってるね。りっぱだよ」と褒めてもらい、きっと笑顔が溢れているでしょう。

(6) 「陸上自衛隊中央音楽隊特別公演 in 神戸」で出身隊員を激励



緒方 1 士 石村 1 尉

伊丹市自衛隊家族会は8月9日、神戸文化ホールで行われた「陸上自衛隊中央音楽隊特別公演 in 神戸」を観覧し、出演した伊丹出身の音楽隊隊員2名を激励しました。コロナ禍で出演予定者が休演し、曲目が変更になる等のことがありましたが、およそ2時間半にわたり終始熱気にあふれた公演でした。

公演後、出口ではありましたが来場者お見送りの場で少しのお時間を頂き、伊丹市出身の指揮者 石村俊之 1等陸尉、ハーブ奏者 緒方黄妃香 1等陸士の両名に対しまして伊丹自衛隊家族会としまして益々ご活躍頂きますよう激励しました。

4 事務局からの連絡

(1) 新任会長・事務局長等研修会の予定

新たに各県等家族会の会長・事務局長に就任された方々に、自衛隊家族会に係る理解を深めていただき、本部と県本部等との連携を密にして、円滑に運営してゆくために「新任会長・事務局長等研修会」を11月10日(木)にグランドヒル市ヶ谷において実施する予定です。

コロナ禍で、昨年、一昨年と2年続けて中止となり、その間に就任された方は研修無しで実務に当たられ、ご苦労が多かったことと思います。

実施の細部は、後日、通知をもってお知らせいたします。宜しくお願いします。

尚、参加にあたり、「活動の手引」をご一読いただけますと、有難く存じます。

(2) 防衛講演会中止のお知らせ

予定しておりました長崎県防衛講演会(8月27日)、福島県防衛講演会(9月17日)は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、まことに残念ながら共に中止となりました。基本的な感染予防策を地道に続けつつ、皆様のご自愛をお祈り申し上げます。

(3) ボランティア保険料の支払いについて

令和3年10月から更新したボランティア保険が令和4年9月末で満期（1年）を迎えます。各県家族会の保険料支払いにつきましては、事務局からの「保険料請求のご案内」が、お手元に届き、確認を頂いた後に10月～12月の間に支払いをお願いします。

(4) 各種希望数の確認について

下記について要望数をそれぞれの時期までに事務局業務担当の今井へご連絡下さい。

ア 家族会パンフレット「隊員と家族をつなぐ」

令和5年、令和6年の所要数を **11月1日(火)** まで

イ 北方領土返還要求署名用紙

令和5年度所要数を **11月30日(水)** まで

ウ 入校・入隊者激励会用「おやばと」（無償配布）

入校・入隊者激励会用の「おやばと2月号」所要数を **11月30日(水)** まで

(5) 令和4年度「活動状況等調査」について

既に家族会本第21号(令和4年4月28日)にて**令和4年11月1日(火)**を提出期としてお願いしております。あと2か月余りですが、提出の程よろしくお願い致します。

(6) 防衛情報紙「おやばと」への記事投稿に当たってのお願い

各県等自衛隊家族会におかれましては、防衛情報紙「おやばと」にご投稿いただき、誠に有難うございます。ご投稿は、お気軽に、普段の活動を自信をもってご投稿ください。掲載されれば会員の励みになります。

記事の長さは、約400字から約500字程度の文章でお願いいたします。

具体的な記事の書き方、投稿については、自衛隊家族会の「活動の手引き」の12頁から14頁を参考にしてください。作成のコツ、見出し、写真等についても具体的に記述しています。皆さまからのご投稿をお待ち申し上げます。

「おやばと」担当者より。

※「活動の手引き」は、自衛隊家族会のHPからもご覧になれます。

以下のURL、または右のQRコードからアクセスしてください。

<http://www.jkazokukai.or.jp/700-Kaiin/KatudouTebiki.pdf>



以上